

# 平成27年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成28年 4 月 8 日

研究・研修課題名	「認定輸血検査技師」試験の受験
研究・研修組織名（所属）	検査部
研究・研修責任者名（所属）	石原智子（検査部）
共同研究・研修者名（所属）	

## 目的及び方法、成果の内容

### ①目 的

わが国において輸血認定医の数は少なく、安全で適正な輸血医療推進の中心は認定輸血検査技師が担っている。本院においても認定輸血検査技師の果たす役割は大きく、資格を取得することによって、安全で適正な輸血医療推進に貢献する。

### ②方 法

認定輸血検査技師の技術に関するカリキュラムとして、輸血検査の基礎、輸血検査に必要な専門知識、輸血に必要な検査、種々な臨床状況における血液検査、輸血業務管理、血液事業に関する理解があげられている。資格取得ためには研修を受け、試験に臨むことが必要である。

1. 指定施設研修として、病院、血液センターで研修を受ける。
2. 認定輸血検査技師制度合同研修会を受講し、一次試験を受験する。
3. 一次試験合格者に対して二次試験が実施され、実技、筆記ともに合格すれば資格取得となる。

#### <指定施設研修>

5月14～15日 国立大学法人 広島大学病院  
5月19日 日本赤十字社 中四国ブロック血液センター

#### <認定輸血検査技師制度合同研修会>

6月20～21日 東邦大学医学部

#### <一次試験> 東邦大学医学部

6月21日 筆記試験

#### <二次試験> 名古屋市立大学医学部

8月22日 実技試験

8月23日 筆記試験

### ③成 果

#### 1. 指定施設研修

国立大学法人 広島大学病院

日本赤十字社 中四国ブロック血液センター

指定施設研修の病院では、輸血検査室、手術室、集中治療室、血液内科病棟、自己血採血室の見学や輸血に携わる各専門家の講義を受け、普段体験できない他施設においての輸血検査、輸血療法の実際を見学することができとても有用であった。また、ブロック血液センターの研修では、赤血球・血小板・新鮮凍結血漿の各輸血製剤の実際の作製方法や献血された血液の検査、献血ルームにおける献血の流れを直接見学するができ、勉強になった。

#### 2. 認定輸血検査技師制度合同研修会

合同研修会では、血液型検査や不規則抗体検査、自己抗体保有者の輸血の対応などルーチン検査で困ったときの対処法が紹介され、参考になった。また、少人数制でのグループディスカッションにおける症例検討も行なわれ、様々な施設の検査技師が集まって活発な意見交換ができ、とても有意義な研修会だった。

#### 3. 一次試験、二次試験

##### ■ 一次試験（筆記試験）

試験時間 1 時間で、内容は輸血検査の基礎、不規則抗体同定、計算問題などであった。

##### ■ 二次試験（実技試験、筆記試験）

実技試験は試験時間 4 時間 30 分で血液型検査、赤血球抗体検査、カラム凝集法について実施された。筆記試験は試験時間 2 時間で輸血学の基礎、輸血検査、血液製剤、輸血療法の臨床問題、計算問題などについて幅広く細かいところまで出題されていた。

結果は一次試験、二次試験ともに合格で認定輸血検査技師として認定された。

輸血は移植の一種であり、種々の副作用・合併症を伴い易く、輸血治療を行うには深い知識、的確な判断力が要求される。今回、認定輸血検査技師の資格を取得したことで、輸血に関する正しい知識を持ち、的確な輸血検査を行い、輸血の安全性向上に寄与することができると考えられる。本院における安全で適正な輸血医療に貢献していきたい。

\* 認定輸血検査技師制度協議会

認定輸血検査技師制度 認定証 受領済 【2015 年 4 月 1 日】